



自分も周囲の人も知らない良いところを見付け、誉めていきたい

校長 濱田 晴明

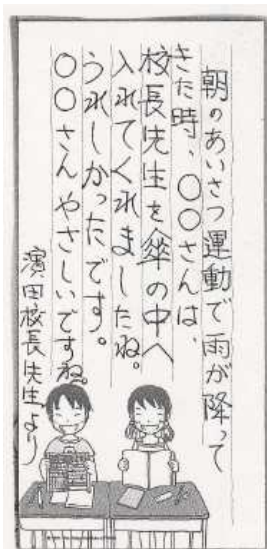
子どもや教職員の良いところを見付けながら、毎日、学校を巡視しています。そして、良いところを見付けると、胸のポケットにしまってある一筆箋に書き、本人に渡すなどをしています。

なぜ、このようなことをしているのかと言いますと、それは、人は、誉められたような人間になるからです。(例えば、「あなたは優しい子ね。」と言われ続けたら、必ず優しい人になり、逆に、「あなたは本当に優しくない子ね。」と批判を受け続けた子どもは、その通りになります。)

それは、人は、自分の良いところを見付けてくれる人の言うことには、心から聴こうとするからです。

それは、自分自身を肯定的に捉えることができるのが、教育の基盤と考えるからです。(キャリア教育など、最近はいろいろな教育の必要性が叫ばれていますが、基盤は「自己肯定感」だというデータが出されています。)

それは、少年院に入所する子どもの共通点の中の一つに「誉められた経験がない」という要因があり、未来を担う子どもたちが、悲しい人生を送らないようにしたいからです。



		『ジョハリの窓』	
		自分(子ども、教職員)が	
周囲の人(家族など)が	知っている	(A) 自分も周囲の人も知っている自分の良いところ	(B) 自分が気付いていないが、周囲の人は知っている自分の良いところ
	知らない	(C) 自分は知っているが、周囲の人は知らない自分の良いところ	(D) 自分も周囲の人も知らない自分の良いところ

さて、誉める内容ですが、左の図(ジョハリの窓)のように、できたら、Bの「自分(子どもや教職員)が気付いていないが、周囲の人は知っている自分の良いところ」や、さらに、Dの「自分も周囲の人も知らない自分の良いところ」を見付けたいといつも考えています。

どうですか? ぜひとも、今後も継続して、周囲の人たち(特に子どもたち)の良いところを見付け、誉めていきませんか。地域等で、子どもたちの良いところを見付けましたら、学校へぜひともお知らせください。

「そう言われても、誉めるところがないはなあ。叱ることはあるけど、難しい。」という声が聞こえてきそうです。安心してください。誉め上手になる秘策があります。その秘策とは、(自分が自分のことを誉めることができない人は、周囲の人は誉められないので、)自分自身の良いところを見付け、「自分を自分で誉める」ことです。(それでも難しいようでしたら、ご家族に自分の良いところを聞いてみたらどうでしょうか。)

さっそく本日よりやってみてください。